［埼玉県私立高校入試結果］

各校ごとの応募者数などは学校ごとに合計したものを付録のエクセルファイルに収録しました。

1.　全体の状況

応募者数	男子校	女子校	共学校	合計
2017 年速報値	6,456	4,291	58,197	68,944
2016 年	6,471	4,529	58,019	69,019
2015 年	6,582	4,498	58,471	69,551
2014 年	8,719	4,773	55,573	69,065
2013 年	8,289	4,524	57,124	69,937

上の表は 3 月 14 日到着分までの編集部のアンケートによる応募者数の集計で、一部入試結果未公表の学校があることと、二次募集は含んでいない学校もあるため最終結果ではありません。

県内私立各校の応募者数は 68,900 件あまりで、昨年とほとんど同じです。私立志向が少し高くなった割には応募者数に反映していません。内訳では女子校の減少が目立ちます。なお、一昨年の男子校が 2014 年より大きく減りましたが、これは小松原の移転・共学化・叡明への校名変更の影響です。

2.　県南部(さいたま市ほか)の概況

まず女子校から。淑徳与野は近年応募者数の変動が小さく、安定した人気で、今年も昨年並みの応募者数でした。各コースとも難度に変化は見られません。一昨年、校名を小松原女子から変更した浦和麗明は、福祉進学・ペットマネジメントコースの募集を停止し、特進コースを特進Ⅰ・Ⅱ類の 2 コース制、進学コースも進学α・進学の 2 コース制としました。進学体制の教科ですが、特にペットマネジメントコースは開設からまだ 2 年で募集停止です。このようなコースの変更は、同校が 2018 年度から共学化するためで、今年が女子校としての最後の募集でした。応募者は減っていて、難度面では新設の特進Ⅰ類が従来の特進(Ⅱ類)よりもやや上、進学αは進学よりやや上の難度で、他のコースは少しバラつきが見られます。コースの難度や応募状況は、来年度は大きく変わるでしょう。

男女校も見てみます。トップ校の栄東は、一昨年、昨年と応募者が減っていました、一昨年は入り易いコースだったアドバンスコースの募集を停止したためで、昨年は難度が上がりすぎたためか、少し敬遠傾向が見られましたが、今年は解消したようです。今年も県内だけでなく、隣接都県も含め、最上位レベルの受験生が集まった入試でした。難度は特に変わっていないようです。栄東と並ぶ進学校の開智は、昨年まで応募者の増加が続いていましたが、今年は昨年並みで、人気が一段落したようです。昨年は最上位コースとして

Ｔコースを新設しましたが、受験生に浸透したようです。Ｔ・Ｓ・Ｄコースとも難度に変化は見られません。

大宮開成は急速に進学校化が進んでいて、同校受験生の学力水準が変わっています。一昨年は入り易いコースだった特進βの募集を停止して応募者が減りましたが、昨年は増加、今年はさらに特進ＳⅡコースを募集停止として応募者が減りました。同校によれば、順調に在籍性が増えているため、今年も入り易いコースをクローズしたとのことで、応募者は減りましたが、受験生は同校の進学校化を支持しています。特進ＳⅡ以外の各コースは、昨年並みの難度ですが、今年も学校の平均レベルがアップした入試でした。埼玉栄は、今年は入り易いコースの総合進学コースの募集を停止したため、当然ですが応募者は減少しています。このような施策をとれば減るのは当然ですが、大宮開成と同じく、減少を覚悟でレベルアップを図りました。総合進学以外の各コースだけだとかえって応募者は増えていて、受験生がこの施策に期待していることがわかります。総合進学以外の各コースは、難度に特に変化はなかったようです。

栄北は昨年まで、隔年での応募者の増減が目立っていました。今年は順番通りなら応募者は減るはずですが、逆に増えて人気が上がっています。1 月 30 日に入試を増設しましたが、応募者が増えたのは既存の日程です。一昨年、自動車科の募集を停止、進学校カラーが強くなって、期待する受験生が増えています。各コースとも難度面では特に変化は見られませんでした。国際学院は昨年、総合学科を削減して普通科を新設、総合学科特別選抜・特別進学コースを普通科に移行して、それぞれアドバンス・セレクトコースにするなど、レベルアップを図った改編を行いましたが、今年は特に改編はありません。昨年は応募者数の増加が目立ちましたが、今年は昨年並みで、人気が落ち着いてきました。やはり各コースとも昨年並みの難度だったようです。

浦和学院は、一昨年は応募者数がやや減少、昨年は一昨年並み、今年は再び少し減っています。県内最大規模の入試で、昨年は応募総数が 4,000 名を超えていましたが、今年は 4,000 名に届いていません。それでも最大です。他校併願受験生が多く、少し他校に流れたようです。やはり難度面では各コースとも昨年並みでしょう。武南は、昨年は応募者がやや減っていましたが、今年は増えて隔年現象です。同校は以前も隔年現象が見られましたが、4 年前に中学を開校してから地域でのイメージが変わってきて、応募者数が安定してきていました。しかし、再び隔年で変化するようになっています。同校も各コースとも昨年並みの難度だったようです。

秀明英光は一昨年が応募者大幅増加、昨年がやや減少、今年は減少が目立っています。人気が反転してきたようです。このところ、中学校で行われる進路希望調査で、10 月は希望者がかなり少なく、12 月に増える状況が続いていて、秋になってから同校を第一志望にする受験生が増えていますが、他校に流れる受験生が増えたのかもしれません。同校も各コースの難度は昨年とあまり変わっていません。浦和実業は隔年現象で応募者数が変化する学校で、今年は順番通り少し増えています、受験者数が少ないコースや入試区分は別と

して、特進選抜、特進、選抜αでは合格最低点が少し下がっている入試区分がある一方、進学や商業科進学、情報進学では上がっている入試区分も見られ、同行受験生の学力の幅が少し小さくなってきているようです。浦和ルーテルは今年も小規模な入試でした。

3.　県西部(川越・所沢周辺など)の概況

男子校の慶應志木と立教新座は入試日程も県内他校とは異なり別格的存在です。慶應志木は、一昨年、昨年、今年と安定した応募者数です。今年は一般入試がやや減っているものの、目立つほどではありません。難度も高水準で安定しています。立教新座は応募者が増えました。昨年は概ね一昨年並みの応募者数で、一昨年も前年並みで安定していました。今年は例年以上に難関校志向の受験生が集まったことになります。神奈川県の慶應義塾が入試日程を変更したため、中大附属や中大杉並と併願できなくなったことから、同校を押さえとして受験する男子受験生が増えたのかもしれません。補欠を出していることもあって、難度に変化はありません。

城北埼玉は、一昨年まで応募者が増えていましたが、昨年はやや減って、今年は減少が目立ちます。人気が反転したようです。難度面ではあまり変化がなかったようです。川越東は、一昨年は応募者が増えていましたが、昨年、今年と前年並みです。以前は隔年現象が見られましたが、人気が安定してきました。ただ、特待の合格最低点は昨年とは逆に下がっています。通常の入試の難度は昨年並みでしょう。城西大川越は、以前は応募者が減少傾向でしたが、一昨年から人気が反転してきました。昨年は応募者が増えましたが、今年は昨年並みで、反転した人気も一段落です。今年は特選クラスをコースとして独立させていますが、あまり影響はなかったようです。やはり難度面では変化が見られません。

女子校の星野女子部は、隔年現象で順番通り今年は応募者が増えています。今年は国際教養コースを新設したことも、応募者の増加につながっています。同校は以前にも国際系のコースを設置していましたが、その時は大分類では商業科としてのコースで、国際ビジネス系の内容に重きを置いていました。今度は普通科としてのコースで、語学などに力を入れるコースです。首都圏全般で女子校の人気が下がっていますが、同校は人気を維持していると言えます。国際教養は文理よりもやや入り易かったかもしれません。他の各コースは昨年並みの難度だったようです。秋草学園は、一昨年は前年並みの応募者数でしたが、昨年、今年と少し減っています。女子校人気の低下が影響しているようです。やはり各コースの難度に変化はなかったようです。

男女校では狭山ヶ丘、山村学園、細田学園の応募者の増加が目立ちます。東野と聖望学園もやや増えています。このうち、狭山ヶ丘は以前から隔年現象が目立っていて、今年は順番通り増えています。昨年までの専願と併願で日程を分ける入試から、1 月 22～24 日とも専願・併願を自由に選べるようにしたことも応募者増加の理由です。聖望学園、東野、細田学園は昨年に続く応募者の増加で人気が上がっています。山村学園は応募者の減少や前年並みが続いていましたが、今年は人気が上向いたようです。同校は特進ＳＡと特進文

理の２コースをクラスとして募集しました。上位大学を目指す進学系のコースを手厚くする改編が多い中でこのような施策は珍しいのですが、受験生の状況に合わせた改編で、だからこそ応募者が増えたのでしょう。各校の各コースとも、難度は特に変化がなかったようです。星野・共学部も応募者の増加が目立ちます。一昨年、昨年と前年並みの応募者数が続いていましたから、人気が上向いています。合格最低点は各コースとも昨年並みでした。

西武文理は応募者の減少が目立ちます。西武台も少し減りました。両校とも昨年に続く減少です。西武文理は近年応募者数の減少傾向が続いています。西部地区受験生の南部地区志向が強くなっていること、都内生の１月挑戦受験もいま一つ盛り上がっていないことなどが原因です。西武台は隔年現象が目立つ学校で、昨年は応募者が減っていましたから、今年は増える順番ですが、人気に陰りが出ているようです。両校の各コースとも難度は維持しているようです。

山村国際は特進コースを特進Ａ・Ｂの２コース制にしました。一昨年は応募者が減少、昨年は増えましたが、今年は昨年並みで安定しています。特進ＡはＢ(昨年までの特進)より少し高い難度でしたが、他のコースは昨年並みだったようです。寮制で一昨年高校募集を再開した秀明は、今年から通学生も受け入れるようになりましたが、性格上小規模な入試でした。音楽系の武蔵野音大附属と東邦第二も小規模な入試です。独特な教育方針の自由の森学園も、今年は応募者が増えていますが、やはり小規模な入試でした。

4.　県北部の概況

まず東上線沿線から。武蔵越生は応募者の増加が目立ちますが、大妻嵐山、東京農大第三、埼玉平成は応募者が減っています。武蔵越生は、一昨年、昨年と、小幅な年もありますが応募者の増加が続いて人気が上がっています。今年は特選・特進コースを統合してＳ特進コース、進学選抜コースを選抜Ⅰ、進学を選抜Ⅱコースとしました。難関大学志向のコースを手厚く改編する学校が多い中で珍しいケースですが、受験生の状況に合わせたからこそ応募者が増えたのでしょう。Ｓ特進は昨年の特進より若干上、選抜ⅠⅡはそれぞれ進学選抜、進学コースとあまり難度の違いはなかったようです。アスリートコースは昨年並みの難度でしょう。

大妻嵐山は近年隔年現象が目立っていて、今年は順番通り応募者が減っています。同校も選抜α、選抜βの両コースを統合して選抜コースとしていますが、武蔵越生と同じ対応です。選抜コースは昨年のβよりもやや上の難度だったようです。他のコースは特に難度に変化はなかったようです。武蔵越生、大妻嵐山の改編の先輩格が東京農大第三で、昨年スーパーセレクト・特進コースを統合してⅠ類とし、総合進学コースはⅡ類として、スポーツ科学のⅢ類を新設しています。理由は同じです。昨年は改編を歓迎して応募者が少し増えましたが、今年は減って隔年的な変化になってきました。各類型とも難度は昨年並み

だったようです。埼玉平成は、一昨年は応募者が増加、昨年は一昨年並みで、人気に少し陰りが出ているのかもしれません。やはり各コースとも難度は昨年並みだったようです。

高崎線沿線では本庄第一の応募者の増加が目立ちます。昨年は正智深谷と東京成徳大深谷が大幅に増加、本庄東と本庄第一が減少していて、本庄地区から深谷地区に受験生が流れが見られましたが、今年はそのような流れは見られません。本庄東は昨年並みの応募者数でした。昨年大幅に増えた正智深谷と東京成徳大深谷は、今年も応募者が少し増えて人気が上がっています。この地域の私立志向が少し上がっています。正智深谷は、21 世紀型教育として、アクティブ・ラーニングや探究型学習に取り組むとしていますが、本格始動はこれからですから、従来の同校の教育が評価されての応募者の増加でしょう。4 校とも併願受験生が多いことから、各コースの難度はあまり変わっていないようです。

さて、この地域には別格的存在の早大本庄があります。一昨年は応募者が増加、昨年は一昨年並み、今年はやや減っています。同校は都内など、県外からの受験生も多く、地元の公立高校受験とは全く乖離した人気動向で、神奈川県の慶應義塾が 2 月 10 日に入試を移して応募者が大きく減ったことから、同校の受験者層に大きな変化はなかったものの、合格ラインには少し影響があったようです。

5.　県東部(東武スカイツリーライン・伊勢崎線・日光線方面)の概況

一昨年、南浦和から越谷レイクタウンに移転、男子校から共学化した叡明は、一昨年は応募者が激増、昨年は減少しましたが、今年は再び大きく増加しました。共学時にレベルアップし、昨年はハードルが高いと感じた受験生が避けたための応募者の減少でしたが、今年は今までよりも 1 ランク上の学力層の受験生の認知度が高まっての増加で、学校側の計算通りの動きでしょう。各コースともやや難化したようです。花咲徳栄も応募者が増えています。昨年に続く増加で人気が上がっています。併願受験生が多く、各コースの難度面は昨年並みでしょう。

開智未来は昨年並みの応募者数でした。開校 7 年目の新しい学校で、難度が浸透するにつれて応募者が減少しましたが、大学合格実績が出て、昨年は大きく増えました。今年は人気が一段落なのでしょう。しかし、合格最低点は一番入り易い開智コースが上がっていて、難化しています。Ｔ未来、Ｓ未来は昨年並みでした。昌平と春日部共栄も、厳密には少し応募者が減っていますが、昨年並みでしょう。昌平は昨年、増加が目立っていましたが、人気が上がって難化したため、今年は落ち着いたようです。合格最低点は選抜の一部がやや下がっていますが、多くのコースは昨年並みです。春日部共栄は一昨年が応募者増加、昨年は減少していましたので、今年は安定したようです。各コース各回とも合格最低点は昨年並みです。獨協埼玉は一昨年が応募者減少、昨年は増加と、隔年現象で今年は減っています。難度面は特に変化していないようです。